

令和7年度  
「運営に関する計画」

大阪市立長原小学校

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿とは、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校のスローガンは「みんながつくる みんなの学校 長原小」であり、「みんな＝自分」として、「当事者意識」を大切にしている。学校教育目標は、「子どもも大人もいきいきしている学校」であり、キーワードは、「笑顔」「元気」「楽しい」の3つである。そして、「子どもに育みたい3つの力」として、

一つ目は、「自分も人も大切にする力」(「思いやり」「自信」「自分が好き」「自尊感情」)であり、二つ目は、「自分で考え、行動する力」(「自分らしく」「主体的」「自分の言葉で語る」)であり、三つ目は「自分からチャレンジする力」(「夢」「目標」「あきらめない」「やりがい」)を掲げ、子どもも大人もそれぞれの力を高めている。

こうした「子どもに育む力」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。なかでも、「安全対策」については「子どもの命を守る」ことを最優先課題として取り組んでいく。また、「学力向上」については、「わかる・できる」＝「楽しい」の原点を肝に銘じて、日々の授業力向上に取り組んでいく。「体育的活動」については、健康であることを第一として、運動能力がバランスよくなるように日々の体力向上に取り組んでいく。また、「読書活動」は、「本は財産」と言われるごとく児童にとって貴重な経験の場になるため、児童が数多くの本にふれることのできる活動に取り組んでいく。

そして、「めざす学校の姿」は「学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進する」ことである。「自己肯定感」を高めることは大切な課題であり、その実現に向けては、「自己有用感(あなたがいてくれて嬉しい・あなたが必要)」を持たせることを一つの手立てとしていきたい。また、「授業を開く」や「地域に開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。

経年調査 77.9%

②令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。

経年調査 75.7%

③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

最終評価 96%

④令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

最終評価 88%

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、35%以上にする。

経年調査 44.4%

②令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

経年調査 65.5%

③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

最終評価 91%

### 【学びを支える教育環境の充実】

①令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。

平均（5～12月） 57.1%

②令和7年度の教員の一人当たり平均時間外勤務時間の累計平均時間を12時間以内にする。

累計平均 13時間 57分

③令和7年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。

最終評価 95%

④令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を90%以上にする。

最終評価 78%

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- ②小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ④令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、35%以上にする。
- ②小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ②教員の一人当たり平均時間外勤務時間の累計平均時間を12時間以内にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。
- ④令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を90%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

「令和の日本型学校教育」を実現するため、様々な形でのアプローチを行った 1 年となった。

子どもも大人も学校を“つくる”主体として、「当事者意識」を高めていくことが必要だが、ぼんやりとして捉えどころのないその意識を、「子どもに育みたい3つの力」として噛み砕いて可視化し、子どもたちに繰り返し繰り返し伝え続けた。

さらに、伝え続けることとともに、たくさんの出前授業やイベントを子どもたちに提供し、実体験の中で意識を高める機会を与えることもできた。

また様々な意味合いで、「学校を開く」ことへも心くばりを行った 1 年となった。保護者（本校ではサポーターと呼称）、地域とともに学校を“つくる”という意識から常に情報を発信し、学びに参加してもらえよう呼びかけ続けた。少しずつ、成果も出てきていると感じる。

子ども大人ともに、“チャレンジ”することに重きを置いた 1 年だったが、今年度トライしてみて初めて分かったこともたくさんある。ここで得た経験をよりよく活かし、次年度に繋げていきたい。

## 大阪市立長原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>①小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。  <b>経年調査 77.9%</b></p> <p>②小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。  <b>経年調査 75.7%</b></p> <p>③令和7年度末の学校アンケート(子ども)の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。  <b>最終評価 96%</b></p> <p>④令和7年度末の学校アンケート(子ども)の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。  <b>最終評価 88%</b></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、日々の児童情報を共有する。</li> <li>「ミマモルメ」の全保護者の登録を図る。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の学校アンケート(サポーター)において「学校は問題が起こったときには迅速に対応している」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。  <b>最終評価 95%</b></li> </ul>	A
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育やキャリア教育、人権を尊重する教育(「ちがいを認め合う実践」)などを行い、自己を見つめ、自己肯定感を高める学習を行う。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の学校アンケート(子ども)において「自分にはよいところがある」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。  <b>最終評価 84%</b></li> <li>年度末の学校アンケート(子ども)において「自分も人も大切にしている」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。  <b>最終評価 96%</b>            (「校長経営戦略支援予算活用」)</li> </ul>	B

<p>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じた「体験活動」(1年「生活科の体験学習」「昔あそび」、2年「商店街見学」3年「今昔館」4年「大阪市立科学館」5年「読売新聞社」6年「ピース大阪」「大阪歴史博物館」等による体験や見学を通じて、「長原タイム」と関連付けながら、キャリア教育の充実や情操豊かな心を育てる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(「校長経営戦略支援予算活用」)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の学校アンケート(子ども)において「体験学習や社会見学で積極的に活動することができる。」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>最終評価 92%</b></p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童昼会や児童集会、運動会や児童会活動などの各種学校行事で「自分から自分らしく表現する」ことに子どもも大人も自分からチャレンジする。</li> </ul>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の学校アンケート(子ども)において「自分からチャレンジしている」の肯定的な回答の割合を90%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>最終評価 88%</b></p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><u>年度目標</u></p> <p>①豊富な体験活動を子どもたちに提供することができた。子どもたちもこれを楽しんでいるよう。次年度に向けこの体験をより深めていくために、日常の学習や長原タイムと関連づけ、質の向上を目指す。また同時に、普段の学習の充実もこれまで通り大切にしていく。</p> <p>②“3つの風船”を膨らませることの重要性を何度も繰り返し、子どもたちに説いてきた。その成果は出ている。</p> <p>③「自分にはよいところがある」「自分も人も大切にしている」、児童アンケートのこの2項目でよい結果が出た。高い目標設定をクリアしたこと、とても素晴らしいと感じる。この2点は、何か一つをすれば達成できるという類のものではないと思うので、教職員の様々な取り組みがよい方向に結果を導いたのだと感じる。</p> <p>④玄関掲示の風船の数では“3つの風船”のうち、「チャレンジ」が最も多い。子どもたちもチャレンジの重要性は理解している。まず、そこに意識を向けられた。</p> <p><u>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</u></p> <p>①全児童確認ボード、ミマモルメなどの活用を始め、情報の共有は行われていると感じる。「学校が問題に迅速に対応している」というサポーターアンケートの結果にも、それが表れている。スピードとともに丁寧さも意識しながら、このまま進んでいけばよい。</p> <p>②自己を肯定するためには、周りと比べた“相対的”なものの捉え方だけでなく自分を信じる“絶対的”なものの捉え方も重要となってくる。たくさんの大人が子どもたちと関わることができている長原のよさを活かし、子どもたちに「受け入れられている」という安心感を与えることで、自分自身の存在を絶対的に肯定できるような関わりを模索していきたい。</p> <p>②今年度は数多くのゲストを含め教職員以外の大人たちと関わる機会が非常に多かった。長原 NAVI、長原マートなど、全学年様々な形での交流があったが、子どもたち自身も含めた“ごちゃまぜ”の集団で、異質な他者との学びを深めることができた。まだ感性が豊かで柔らかい年代でのこの体験は、人生の中でも必ず生きてくると感じる。</p>	

③出前授業等、たくさんの行事を子どもたちに体験させることができた。その量の豊富さは素晴らしい。次年度は、その体験で感じたことをより深く身に着けさせるために、振り返りを大事にし、またその行事で学んだことへの“価値づけ”を大切にすることが必要がある。

④児童にチャレンジを促すために、大人自身がチャレンジすることが重要だが、今年度はそれを行うことができた。

#### 次年度への改善点

##### 年度目標

④学校全体でのチャレンジをすべての児童のチャレンジに繋げるため、児童の“主体性”を引き出すような働きかけを行っていく。

##### 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

②よく言えば謙遜の心が働いて、「自分のことをよく言う」のはためらいがちになるものだが（特に高学年）、よい数値が出ている。次年度以降も長原小の良さを伸ばすため、学校教育目標にもあるように、まずは「大人がいきいき、子どもたちに自分の素敵な姿を見せる」ことを大切に、また、「うれしい言葉」をたくさん子どもたちに発信していきたい。

④ファーム、マート、漫才、NAVI、フェスティバルなどなど、子どもたちは日々チャレンジしていた。また、普通の授業中での何気ない発表がチャレンジとなる子どももいる。子どもたちの様子を丁寧に“見取り”価値づけを行う。“小さな、ささいなチャレンジ”は日常に転がっている。

④チャレンジの項目で目標を達成するためには、「今この場面で必要とされているものがチャレンジということ（日常的なささいなものでもよい）」「今あなたがしたことがチャレンジということだよ」というように、チャレンジというものを噛み砕いて子どもたちに可視化し、子どもたちの心に落とし込む必要がある。

④各学年でのチャレンジの取り組みをその時その時の単発のもので終わらせないようにしたい。高学年の児童の姿を見て下学年の児童も「チャレンジしよう」という気持ちになるよう、学校全体として日常的にチャレンジしていく。

④チャレンジが苦手だと感じる子どももいる。“個に応じたチャレンジ”を設定するなど、“小さな達成感”を積み上げていく。

④たとえ結果が出なくても、チャレンジしたことには変わらない。チャレンジの過程そのものを称賛していく。またチャレンジを促すには「失敗しても大丈夫」という“空気感”づくりも重要。

## 大阪市立長原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、35%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>経年調査 44.4%</b></p> <p>②小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>経年調査 65.5%</b></p> <p>③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>最終評価 91%</b></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・「本につかる朝（読書タイム）」、「ドリルタイム」、「自学ノート」、「長原タイム（探究的学び等）」「哲学対話」の活用を行い、基礎学力の向上とともに、「学びに向かう力」を高める。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート（子ども）で「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的な回答をする割合を 82%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>最終評価 91%</b></p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>・「なわとびタイム」や「かけ足タイム」などを実施したり、体育の授業で体を動かす時間を十分に確保したり、休み時間には外で体を動かす機会を増やしたりして、運動を楽しむ活動を充実する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート（子ども）で「運動やスポーツをすることが好きである」の肯定的な回答をする割合を 85%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>最終評価 87%</b></p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>年度目標</b></p> <p>①児童アンケートにおける「話し合い活動を通し、自分の考えを広めることができています」の項目において、目標数値大きく上回り、目標を達成することができた。</p> <p>①哲学対話や長原タイムの活動の中で話し合い活動を充実させることができた。機会の確保は達成できたと思う。</p>	

- ②児童アンケートにおける「運動・スポーツが好き」と答える児童の割合を90%以上にするという項目が87%で、達成することができなかった。
- ③経年調査のアンケート結果がでていない。学校アンケートにおける「自分で考えて行動している」の項目で目標数値が93%のところ結果が91%と達成することができなかった。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

- ①哲学対話や長原タイム、日々の活動の中で話し合い活動を通し、自分で考える機会を多く設けることができていた。
- ②縄跳びタイムやかけ足タイムなどの取り組みもしっかりと実施することができた。

次年度への改善点

年度目標

- ①話し合い活動をよりよいものとするため、話し合いの内容を深めていく必要がある。
- ①自分の考えを他者へ広げる部分や指示を少なくして自分の学びを自分でコントロールする機会を増やし、改善につなげていきたい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

- ①学力の向上という面で、教科と関連付けて長原タイムを実施することやドリルタイムの活かし方を考えていかなければいけない。
- ②休み時間の減少などの理由により運動する機会が減っていることも、運動・スポーツが好きと答える児童の数が減ってきている原因につながっていると考えられる。体育の授業の中でしっかりと運動量を確保し、「楽しい」と思えるような活動を考えて行っていく必要がある。

## 大阪市立長原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>平均 (5~12月) 57.1%</b></p> <p>②教員の一人当たり平均時間外勤務時間の累計平均時間を12時間以内にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>累計平均 13時間 57分</b></p> <p>③令和7年度末の学校アンケート(サポーター)において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>最終評価 95%</b></p> <p>④令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を90%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>最終評価 78%</b></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台端末の環境を活かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを行う。(「がんばる先生支援事業活用」)</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の学校アンケート(子ども)において「毎日、学習者用端末(タブレット)を操作しましたか。」の肯定的な回答をする割合を84%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>最終評価 86%</b></p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時差通勤制度」の有効活用や、退勤BGMを流すなどして、毎日セット時刻を午後5時30分に設定し、タイムマネジメントを意識する働き方改革を行う。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度の教員の一人当たり平均時間外勤務時間の累計平均時間を12時間以内にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>累計平均 13時間 57分</b></p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の学校」として、NOS(Nagahara Open School)に取り組み、「いらっしやい長原の先生」や「長原チャンネル」や「長原ファーム」などを通して、学校を地域に開き、子どもと大人がともに学ぶことを推進する。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の学校アンケート(サポーター)において「学校は子どもたちのために様々な取り組みを積極的に行っている。」の最も肯定的な「当てはまる」の回答をする割合を85%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>最終評価 81%</b></p>	C

<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】  <b>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b>          ・「新たな教師の学びの姿（主体的・自律的・常に学び続ける・個別最適な学び・協働的な学び）」に基づく研修（研究）により、いきいきとやりがいを持って自己成長することができ、学校組織を活性化する。（「校長経営戦略支援予算活用」）</p> <hr/> <p>指標          ・年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を 95%以上に  <b>最終評価 95%</b></p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><u>年度目標</u>          ①ICT 活用については、児童が端末を文房具のように日常的に使いこなす段階に達し、教員からも「日常の光景になった」との評価が定着した。          ②働き方改革においては、時間外勤務の数値目標（月 12 時間以内）を概ねクリアし、市平均を下回る成果を出した。          ③「教員がいきいきしている（肯定率 95%）」という高い評価を得た。          ④教職員向け研修については、職員アンケートにおいて 78、4%と目標には届かなかった。ただ多種多様な職員研修が実施された。</p> <p><u>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</u>          ①ICT 活用については、児童が端末を文房具のように日常的に使いこなす段階に達した。          ②PM4:45 より、退勤 BGM を流すことはできた。          ③「いらっしやい長原の先生」や「長原チャンネル」や「長原ファーム」など、様々な取り組みを行うことができた。          ④教員自身の主体的な姿や、チームとして支え合う職員室の雰囲気、結果として子どもたちの「学校が楽しい」という実感や意欲的な活動に直結しているという好循環が確認された。</p>	
次年度への改善点	
<p><u>年度目標</u>          ④行事の重複や新たな取組（長原チャンネル等）により、教員個人の工夫だけでは「現状維持が限界」と感じられる局面もあった。数値上の達成感と、現場の多忙感（負担感）の乖離を埋めることが課題として残った。          ④「授業に直結する学び」へのニーズに応え、研修内容は教科指導や教材研究、そして ICT を「どう学びを深めるか（協働・個別最適）」という実践面に重心を移す。</p> <p><u>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</u>          ②全体一律の研修を精選し、希望制・自由参加型を増やすことで教職員の自律的な学びを促進する。あわせて、研修や行事の年間計画を早期に明示し、教職員が見通しを持って準備・実践できる環境へと改善を図る。          ③教員の負担軽減と教育効果の最大化を図るため、「いらっしやい長原の先生」等の既存行事について、その必要性を再検討し、廃止を含めた大胆な見直しを行う。個人のタイムマネジメントに依存せず、組織として業務総量を削減する仕組みを構築する。</p>	